校友時報

昭和63年4月27日
編集人兼発行人
秋田県能代市高塙2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所 ㈱大勝堂印刷

国公立大　合格者100名越える!!

好成績　東大へ三名

○……六十三年度の進路状況が別表のようにまとまった。……○
○……今年は現役での東大合格者が三名（うち一人は京大と……○
○……ダブル合格）、国公立大の合格者数が昨年を三十名近……○
○……く上回るのべ一〇五名となるなど、好成績を収めた。……○

今年の入試は、昨年に引き続いて複数受験が行われたが、二次の出願時期が共通一次の後となったことから、昨年は全国で十万人を越えた足切りも、今年は一万五千人程度まで減り、やや落ち着いた様子をみせた。

本校の主な国公立大の大学別合格者数は、東大に三名、京大に一名、また秋田大が昨年の二十四名から三十九名へと大幅に増えたほか、弘前大十九名、山形大八名、これに横浜国立大、埼玉大が各四名、岩手大が三名、千葉大、筑波大、東京学芸大、新潟大、富山大、福島大が各二名と続いている。

このような好成績を収めることができた理由を、進路指導の藤田昭夫先生と鈴木進先生にうかがって、まとめてみた。

○今年の共通一次の平均点は五三二・六、昨年は四八八・一であったことからみても、今年の平均点は相当高くなったと言える。中でも英語は昨年を十七点も上回っており、今年は英語のレベルが高い学年であった。――これは私大にも有利に働いた。

○昨年は二次の出願が一次前であったため、受験者の二十八%に当たる十八名（延数）が足切りにあったが、今年は自己採点の結果をもとに二次の出願ができたので、足切りは二名のみ、力に合った大学を選ぶことができた。

○一年生のときから志望大学を決めて勉強していた人がみられ、その人たちがランクを落とさずに初志を貫徹した。

以上の点が特徴としてあげられた。

次に、主な私立大の大学別合格者数は、秋田経法大十一名、東北学院大七名、神奈川大、東北福祉大が各六名、これに早稲田大五名と続いている。今年は複数受験の影響で、私大の中堅校のレベルがアップしており、いわゆる日東専駒あたりの合格者が多少減った。これには、国公立大にねらいをしぼった者が私大を受験しなかったことが関係している。こうしたことから私大の合格者は人数的には減少したが、内容的には良い結果となった。

また就職者の方をみてみると、今のところ民間、公務員を合わせて三十一名となっている。公務員の方にまだ少し動きがみられるため、この先何人か増えることが予想されるが、昨年と比べるとやや減少した。

主な就職先は、東北電力、農協関係、日本通運、リクルートなど。公務員では県庁、二ツ井役場、建設省などへの採用が決まっている。

今年の結果について、担当の佐々木繁雄先生は「思ったより公務員の採用が少なかった。また今年は就職希望者が例年より少なかったことや、公務員にもれた者が民間へ流れず、各種専修学校へと進路を変更した者が多かったことが、就職者の減少につながったようだ。」と語られた。

	62 年		63 年	
	合格者数			
国公立	77		105	
私立	178		131	
合計	255		236	
短大	13		32	
各種専修	41		40	
合計	54		72	
就職	県内	県外	県内	県外
公務員	17	15	9	18
民間	9	17	12	7

※数字は現役のみの延数

新たな期待

校長　加賀　正隆

新年度を迎え、あらたな希望を胸にしていることと思う。特に新入生の諸君は、これからの三年間の高校生活に大きな希望と新たなる決意を心にしっかりと刻みこんで欲しい。総ての物事は初めが肝心であり、出発時の心構えが最も大切である。全校生徒諸君も、今年度は、それぞれ自らの目標を定め、その目標に向かって失敗を恐れず懸命に努力し、能高生として大いに活躍することを期待する。

文化勲章受章者で数学者の広中平祐教授は、あるインタビューの中で「私は反省するのが嫌いです。」という意味のことを語っていた。一見強気な人間の言葉のようであるが、実は、反省している時間があれば、先のことを考える時間に振り向けるということなのである。

失敗を繰り返さないためにも、まず「自分を知ること」が大切である。背伸びしていては重いものを押し上げることは出来ない。また人の真似ばかりしている人間は、いつも他人の後について生きていく人間になってしまう。

人生とは自分を創造していくことでもあろう。真剣に生きようとする時、自らを知っている人は強い。自分を知らずに自分を究めることは出来ないのである。計画、実行、反省、その繰り返しの中から自らの道が拓けてくると思う。

計画、目標の基礎になるのは情熱であり心の炎でもある。実行とは努力であり汗することである。反省とは、水のような冷静な心であり、判断力を養い次への決断の糧となるものである。

「世界一努力した人に、世界一の栄誉がくる。」王選手を育てた荒川コーチの言葉である。安易なものに目を向け、楽しく過ごす青春もあろうが、その目標に向かって自分の可能性を追求するのも青春である。私達は、社会や他人に厳しい目を向けることは容易であるが、自分自身を厳しく見究めることは難しい。しかし自分を知るためには自らを厳しくみつめる事が大切なことである。

諸君には輝かしい未来がある。明日を考えるゆとりをもって、若き力を発揮することを期待する。

いんたびゅー

信太光郎君　佐藤全敏君　吉田　謙君

今年は、みごと東大に三名の合格者を出したが、そのうちの一人、G組だった佐藤全敏さんに話を聞いてみた。

――どうして東大を？

はじめは無理だと思ったけれど、挑戦してみるのもおもしろいと思ったから。

――将来の夢は？

できることなら、ずっと勉強していたい。

――合格の知らせは？

電子郵便を頼んでおいた。

――東大受験を決めたのは？

密かに高一の秋ごろ。

――受験勉強で特に力を入れたことは？

塾や添削はやりませんでした。むしろ絶対的に信頼できる先生を見つけることです。僕は駿台文庫、駿台関係を多くやった。

――夏季講習などは？

高二のとき駿台の〝標準〟を受けたけれど、すぐ帰ってきてしまった。〝標準〟は授業と変わらない。それよりは駿台模試を受けた方がいい。信用できる。（駿台をほめる、ほめる）

佐藤さんはいろいろ話してくれた割には「これは書くな」と言ったり（載せたかった!!）合格の瞬間に思ったことを「！」であると書けと言ったり、とても明るくおもしろい人だった。

私大納付金、百万円台に

私立大学では、この四月から新入生の初年度納付金が値上げされて、平均九十九万九千六百七十一円となった。これは昨年より二・九%（約二万九千円）のアップである。アップ率を見る限りでは過去最低ということだが、今回の値上げにより文科系の学部を除くほとんどの学部で百万円を越えた。

主な私立大学の初年度納付金とアップ率をあげてみると

早稲田大学
理工――百十六万円（四・〇%）
文・教――八十二万円（三・八%）

立命館大学
理工――九十二万二千円（八・二%）
文・経――六十六万一千円（四・八%）

となっており、私大の中では最も安いとされる立命館大学ですら、百万円の一歩手前まできている。

これに対し、国公立大学の初年度納付金は四十八万円となっている。今回の私大の値上げにより、国立大学との金額差はさらに大きいものとなった。

合格への方程式

高木先生考案

ガラガラガラー「はーい教科書出せー」いつものセリフを言いながら、国語科の高木洪爾先生が教室に入って来た。そのうっとりするような魅惑的な声を聞いていると思わず瞼が重くなるが、見つかろうものなら愛用の鉄パイプが飛んでくる。ふと黒板を見ると二つの方程式があった。

・共通一次（yは得点）
$y=60x+300$（±100）

・私立大学（yは偏差値）
$y=6x+30$（±10）

先生曰く「これは私の今までの経験から出た方程式だ。xに毎日の家庭学習時間を代入すると国公立大志望は共通一次の得点が出るし、私大は偏差値が出るんだ。括弧内のプラスマイナスは学習開始時期によって異なり、四月より早ければ早いほどプラスになる」

この説明を聞いてから、志望大学にあてはめ、出た答え通りに実行している人もいるとか。合格するためにはどのくらい勉強したらいいか知りたい人はおためしあれ。

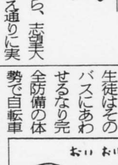
路線バスコース変更

登下校に利用されていた秋北バスの国道七号線能代バイパス線（路線バス）のコースが四月一日から変更された。

これまで路線バスは能代ステーション―東能代駅間を一日に朝昼夕の三往復していたが、利用者が少なく採算がとれないこと、従来のコースでは能代駅前を通らず不便だったこと、中和通りを通ってほしいとの声があがっていることなどからコース変更に踏み切ったものである。

改正後は昼間の一往復が廃止になるほか、朝夕の二往復は従来の能代ステーション―官庁街通り―柳町通道―花園町―芝童森交差点―大瀬団地―内崎内柳―能代高校入口―東能代駅前のコースが、柳町新道から疎開道路を通り、能代駅前―中和通り―いとく能代南店―大瀬団地と改正されることになった。なお運行時間は変わらず、能代ステーション発車時刻は、朝は八時、夕は三時二十五分である。

この変更により、バスに乗れなくなる生徒がでてくるわけだが、スクールバスとちがい路線バスには学校側でその運行に介入できないためどうすることもできず、雨の日などの登下校は、生徒はそのバスにあわせるなり完全防備の体勢で自転車に乗るなりの対応が必要となる。



なお、冬期のスクールバスは中和線・天理線ともコースは変わらず運行するとのことである。

感動のフィナーレ

――青函連絡船――

六十三年卒　武村尊生

その日の海峡は、前日までのしけが嘘のように穏やかだった。やや肌寒いが、デッキを渡る潮風がここちよい。

船尾で描き出された白い航跡が、漆黒の彼方へと消えて行く。頭上には一面の星空。三月十三日・青函連絡線第七便・八甲田丸。鉄道連絡船としての、青函航路の最終便となる船だ。四時間ほど並び、やっとのことで限定発行の乗船名簿を手にし、ようやく私は船上の人となった。

私が初めて青函連絡船と出会ったのは、四年前、中学校の修学旅行の時である。帰りの船で自殺者が出たことに、当時かなりのショックを受けた。その後、北海道旅行の折に数回お世話になっている。たくさんの人と出会い、時間を忘れて語り合ったのも、この連絡船の上だった。

どれ位時間が過ぎただろうか。私の右手には、函館山が迫っていた。早いもので、もう函館湾内である。港一面に、煌々と光をたたえた漁船群、そして桟橋には鈴なりの人。予想以上に盛大な出迎えだ。船内のあちこちで、万歳三唱、三本締めが響きわたった。

感無量――。私の旅はこの先七日の行程だが、それを取りやめ、このまま帰路についても未練はない。最後の瞬間にこうして立ち会えた、それだけで満足だった。八甲田丸はゆっくりと函館に接岸した。

（最後の青函連絡船に乗船を果たした卒業生の武村君にその感想を書いてもらいました）

三点

▼新入生諸君、入学おめでとう。生徒全員歓迎します。みなさんは高校生となった今、〝これをやるぞ〟といった目標をもったことでしょう。しかし、しばらくはまだ高校生活に慣れていないせいで緊張しっぱなしだったり、失敗したり、不安がつきまとうかもしれません。先輩達もそうでした。でも失敗を恐れず、前向きな姿勢だけは失わないでください。▼能楽の大成者世阿彌は「花鏡」に「初心忘るべからず」と書いています。元々は、習い始めの頃の謙虚な気持ちを忘れてはならないという意味です。ここでは〝初心〟を〝目標〟と置き換えてみましょう。例えば私達は大学に合格したいとか大会で優勝したいとかそれぞれ思っています。こうした目標を達成するためには、途中で挫折したり苦しんだりするでしょう。しかし努力を怠ってはなりません。あきらめずにがんばればがんばるほど達成したときの喜びは大きなものになります。▼「人間は何かをするために生まれてきた。赤ちゃんは掌（て）をしっかり握って生まれやがて開いてしまう。それをまた取りもどすために、人間は生きてゆくのだ」という話を聞いたことがあります。その手に握っていたものがいったい何であったのか――それを模索し、再びつかみとることは苦しいことかもしれません。しかし楽しみなことでもあるでしょう。また、自分が生きた証ともなることでしょう。▼筆者も目標に向かって歩いている段階ですから、立派なことは言えませんが、好きな言葉に「為せば成る」という言葉があります。可能性を秘めた者でもなにもやらなければ成就しないのです。青春まっただ中の高校生活もつまらないものとなってしまいます。そうならないためにも、どんなに苦しくとも逃げずに立ち向かっていくようなチャレンジ精神をもって、何事にもぶつかっていきましょう。